

●京都府立陶板名画の庭

<p>前回検証結果 (平成23年度)</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 物件費等の削減など、より効率的な運営に取り組むこと。
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の北山街協同組合が指定管理者として運営するにあたり、地域に密着した効果的・効率的な運営を実施するとともに、委託業務内容の見直し等により経費削減を実現。 ・ 安藤忠雄氏の設計による施設訪問を目的とした外国人（特に台湾・中国）等の利用者の増加により、ホテルやタクシーへのチラシ配布、旅行会社向けHPの構築など広報PRを強化。 ・ 隣接する府立植物園と連携して、相互に利用者を誘客するため、お得な共通入園券を発売。
<p>取組の成果</p>	<p>◇直近3箇年の実績として、平成25年度と比較し、平成27年度は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 物件費が約14%減少 ・ 利用者が約43%増加
<p>なお残る課題・ 問題点</p>	<p>◆竣工後23年を経過し、建物・設備等の老朽化が進行</p>
<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □当初の設置経緯と府民生活を営む上での必要性について、再検証すべき段階にきている。 □本施設の事業領域が、利用者にとってどの程度有効なのかモニタリングする必要がある。 □府の負担割合が高く、さらに老朽化対策の追加投資も踏まえ、本施設の今後について考えるべき。 □コミュニティアートやエリアデザインなどの情報発信拠点として今後の発展が期待できる。
<p>京都府の検証結 果及び対応方向</p>	<p style="text-align: center;">要 改 善</p> <p><改善方策></p> <p>◎当初の設置趣旨と経過、公共性、利用者にとっての有効性を検証し、2020年のオリンピック・パラリンピックに向けた文化発信事業等において、当施設を幅広く活用できるよう、北山文化環境ゾーンの今後の構想において、他の施設等と連携した文化芸術や北山地域の魅力の発信拠点としての更なる活用など、中長期的な戦略を検討すること。</p> <p><今後の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆北山文化環境ゾーンについては総合資料館跡地活用等検討委員会におけるゾーン全体のランドデザインの議論を踏まえながら、老朽化した施設・設備の改修・更新も含め、中長期的なあり方を検討する。 ◆2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、本施設におけるアート発信などを通じたさらなる集客を図るため、以下の取組を進める。 <ul style="list-style-type: none"> ○公式HPのリニューアル及びSNSでの情報発信など広報活動の強化。 ○アート空間として伝統と現代が会う創造的な文化事業の展開。 ○植物園北泉門及び京都学・歴彩館のプロムナードの完成を機に各施設と一層連携し、来園者の回遊性を向上。